

〔2018年4月1日～2018年9月30日〕
2018年12月発行



ウシオイノベーションラボ(東京本社)

CONTENTS

USHIO NOW!.....	P 2
社長からのメッセージ.....	P 4
事業の概況.....	P 6
特集 ウシオの光を世の中へ.....	P 8
社会とともに.....	P10
決算の状況.....	P12
株主さまとともに.....	P14

USHIO NOW!

ウシオ電機の今

◆ ウシオとは

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業」へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェア No. 1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

◆ ウシオのマーケット

Electronics

半導体、フラットパネル、精密機器、電子部品、光化学、印刷、産業機器など

Life Science

医療、自然環境、農業、海洋／漁業、セキュリティ、エネルギー、宇宙開発など

Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、プロジェクション・マッピング、バーチャルリアリティ（VR）／シミュレーション、監視／制御用映像表示システム、プロジェクター用光源、一般／商業施設用照明、景観照明・演出、ステージ／スタジオ照明・演出、オフィス・ドキュメント用光源など

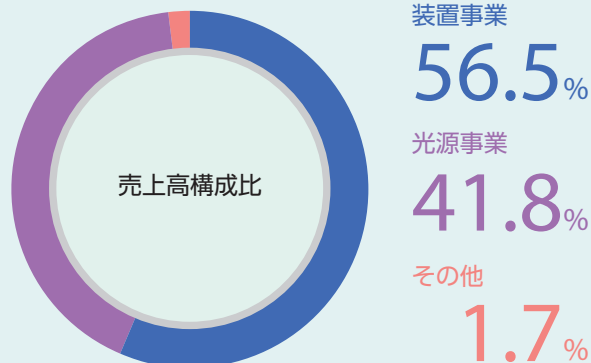
業績ハイライト (2018年4月1日～2018年9月30日)

売上高

826 億円

営業利益

53 億円



本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

◆ グループ会社



【装置事業】

映像装置における、前年同期の特定案件の減少、および映画館の年間新設数の鈍化などにより減収となったものの、光学装置は拡大基調で推移したことから、減収増益となりました。

2017.9 ▶ 2018.9^{※2}

売上高^{※1}

467億円 ▶ **466**億円 ▼

セグメント
利益

0億円 ▶ **1**億円 ▲

【光源事業】

データプロジェクター用ランプにおける、前年同期のまとまった売上の減少、およびシネマ用ランプの固体光源化によるリプレイス需要減少から、減収減益となりました。

2017.9 ▶ 2018.9^{※2}

369億円 ▶ **345**億円 ▼

54億円 ▶ **48**億円 ▼

【その他】

前年同期に拡大した食品包装機器の一部案件が当期減少したことにより減収となりました。

2017.9 ▶ 2018.9^{※2}

15億円 ▶ **14**億円 ▼

0億円 ▶ **0**億円 ▼

※1 外部顧客への売上高を記載しています。 ※2 第2四半期累計

社長からのメッセージ

減収減益ではあるものの、 中期計画目標値達成に向け着実に進展中

◆ 2019年3月期第2四半期の業績について

前年同期を振り返りますと、主に2つの特定案件がありました。具体的にはデータプロジェクター用ランプにおいて、特定ユーザー向けに採用が進んだこと。また、映像装置においても、前年同期に特定の映像ソリューション案件がありました。これらの特定案件が減少したことから、減収減益決算となりました。

その結果、2019年3月期第2四半期（上期）の売上高は、前年同期比3.1%減収の826億3百万円、営業利益は、前年同期比5.0%減益の53億5千6百万円となりました。当社を取り巻く事業環境ですが、半導体・電子部品関連市場では、IoTや5Gなどの進展およびスマートフォンの小型化や高機能化に向け、電子デバイス需要は堅調に推移しています。一方で、前期に拡大したM-SAP向け需要には一服感がみられます。フラットパネルディスプレイ関連市場では、中小型パネルの投資は液晶から有機ELディスプレイ（以下、OLED）へ移行していますが、OLEDの需要にも鈍化傾向がみられます。一方で、大型パネルは液晶を中心に設備投資が増加しています。その結果、関連する光学装置が前年同期比16.3%増収、UVランプがほぼ横ばいで推移しました。

◆ 下期の見通しについて

下期は、一部で不透明な事業環境があるものの、通期公表値については据え置き考えです。

映像装置では、年末商戦に向けデジタルシネマプロジェクターの販売は拡大していく見込みで、新製品であるRGBレー

シネマ関連市場では、中国で映画館の新設が続いているものの、全世界の年間新設数は鈍化傾向にあります。また、中国市場では、新設映画館の半数以上で固体光源（LEDやLD）タイプのプロジェクターが採用されており、固体光源の拡大が進んでいます。その結果、シネマ用ランプのリプレイス需要が減少し前年同期比8%減収となりました。また、映像装置は、前年同期比8.9%の減収となりました。なお、映像装置では、このような状況に対応するため、抜本的な収益構造改革を進めています。また、固体光源化の市場ニーズに合致した高付加価値なRGBレーザープロジェクターが2018年3月より新たに製品ラインナップに加わりました。これにより、映像装置の収益性は改善傾向にあります。

経常利益は営業利益で減益となったものの、営業外収支で為替差益を計上したことなどにより、前年同期比3.1%増益の72億4千万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年同期に特別利益として厚生年金基金代行返上益60億2千4百万円を計上したことなどから、前年同期比57.7%減益の35億8百万円となりました。

ザープロジェクターの販売も順調に拡大していく予定です。また、ウシオにとって初めての販売となるEUVマスク検査用光源も下期に売上を計上する予定です。

◆ 中期経営計画について

2019年3月期は、「次なる飛躍への基礎固め」をテーマとした3か年の中期経営計画の2年目になります。1年目は、売上高は目標に届きませんでしたが、営業利益は目標100億円に対し101億円となり、目標を達成することができました。引き続き、2年目も目標が達成できるよう、2つの重点施策を進めています。

1つ目は既存事業の収益性維持・改善です。映像装置や光学装置などを中心に収益構造改革を進めており、成果が出始めています。

2つ目は新たな成長機会の追求です。映像装置におけるRGBレーザープロジェクターや光学装置のEUV関連事業など基盤事業をさらに成長させる製品の開発と販売を進めてまいります。

「光企業」としての次なる飛躍に向け邁進するウシオに、どうぞご期待ください。

代表取締役社長

浜島 健爾



事業の概況

事業環境

◆ 共通

- ・米中貿易摩擦の影響は軽微も今後は不透明

◆ エレクトロニクス分野

● 半導体・電子部品関連市場

- ・IoTや5G、車載の進展による各種電子デバイス向け需要は堅調
- ・スマートフォンの小型化・高機能化に向けた電子デバイス需要は堅調
- ・M-SAP関連の需要は一服感あり

● FPD関連市場

- ・中小型パネルは、液晶からOLEDへ移行も一服感あり
- ・大型パネルは、液晶を中心に設備投資需要増加

◆ ビジュアルイメージング分野

● シネマ分野

- ・中国で映画館の新設が続くも、全世界の年間新設数は鈍化傾向
- ・中国市場では、新設映画館の半数以上が固体光源タイプのプロジェクターを採用
- ・シネマプロジェクターの光源部分の置き換えが継続(ランプ→固体光源)

● 一般映像分野

- ・エンターテインメント向けで映像ニーズが増加傾向

● データプロジェクター分野

- ・市場における高輝度プロジェクターに採用される固体光源の割合増加

装置事業



映像装置

- デジタルシネマプロジェクター (DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム、プロジェクション・マッピング



光学装置

- 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置 (露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- 紫外線治療器など医療機器
- 開発用・検査装置用EUV光源

光源事業



放電ランプ/LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用および産業用光源

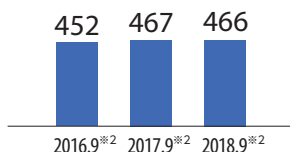
ハロゲンランプ

- OA機器
- 照明 (商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)
- 産業用ヒーターランプ

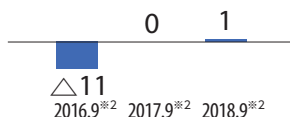
▶ 当第2四半期の業績

シネマ分野では、中国を中心にシネマスクリーンの新設が続いているものの、DCPの販売台数は前年同期比で減少傾向にあります。一方で市場ニーズに対応した高付加価値なRGBレーザーを搭載した新規プロジェクターの販売により収益性は向上しています。

UV装置では、一部のスマートフォンの減産による影響によりM-SAP向け設備投資の抑制傾向がみられ、直描式露光装置の販売が減少しました。一方で、スマートフォンの小型化・高機能化に向けた電子デバイス需要は堅調に推移し、液晶ディスプレイの大型化による設備投資の増加から液晶関連装置は売上が増加しました。

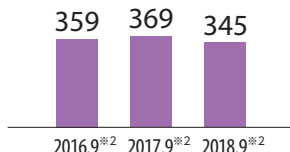
売上高^{*1} (億円)

セグメント利益 (億円)

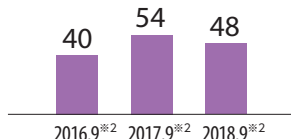


▶ 当第2四半期の業績

露光用UVランプについては、OLED関連の需要に一服感がみられることからランプの需要が減少したものの、大型液晶ディスプレイの設備投資拡大によるランプの需要は増加しました。シネマプロジェクター用クセノンランプについては、特に中国においてシネマプロジェクターに搭載する光源の固体光源化が進み、リプレイスランプの需要は弱含みで推移しました。主に放電ランプ全体の売上高が減少したことにより、光源事業全体でも減収減益となりました。

売上高^{*1} (億円)

セグメント利益 (億円)



▶ 通期の見込み

映像装置では、年末商戦に向けDCPは増加、RGBレーザープロジェクターは好調な市場環境から堅調に推移する見込みです。また、光学装置はM-SAP関連の投資回復は遅れる見込みです。電子デバイス関連等の需要は堅調に推移する見込みですが、一部で期ズレの可能性あります。

売上高	(億円)		
	2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 通期(計画)
映像装置	306	279	600
光学装置	150	175	375
照明装置他	9	12	15

▶ 通期の見込み

放電ランプでは、大型パネル向けの需要は引き続き堅調に推移する見込みですが、OLED関連の需要が低調に推移する懸念があります。シネマ用ランプでは、固体光源化の影響が継続する見込みです。

ハロゲンランプは、高付加価値製品の販売割合の増加を見込んでいます。

売上高	(億円)		
	2018年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 第2四半期累計	2019年3月期 通期(計画)
放電ランプ	307	287	645
ハロゲンランプ	62	58	125

特集 ウシオの光を世の中へ ~オープンイノベ



◆ USHIO INNOVATION LABとは？

ウシオの光技術のPRを行い、技術や製品に関する情報を発信するためのショールームおよびプレゼンテーションスペースです。2018年10月1日に、東京本社に続いて、播磨事業所（兵庫県）と御殿場事業所（静岡県）に開設しました。

「光企業」として、「光で何ができるのか」を紹介するとともに、ウシオだからこそできる「光」を通じた新規事業創出のきっかけを提供します。

ウシオ・イノベーション・ラボWebサイト
<https://lab.ushio.co.jp/ja/lab/>

◆ USHIO TECHNO LABとは？

プレゼンスペースであるUSHIO INNOVATION LABに対し、USHIO TECHNO LABは、ウシオの光を実際に使用する実践の場です。

お客さまのニーズをウシオの光技術と光製品を使ってカタチにし、そこで得た知見やノウハウを蓄積していくことで光の専門性をさらに磨き、「光のプロフェッショナル」としてサポートをします。

パートナーとともに新しい事業を「協創」していくことを目指します。

ーションの実現に向けて～

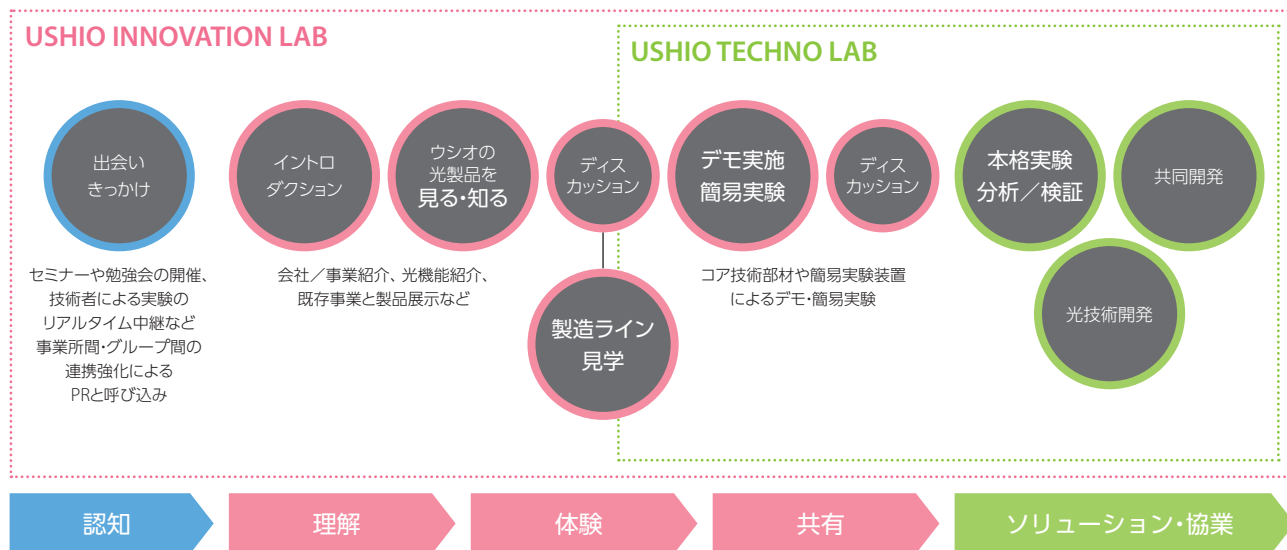
◆ パートナーとの光の協創

近年、さまざまな分野でオープンイノベーションを通じた事業創出が盛んに行われています。USHIOはこれまで、多くの研究機関や企業との連携を通じて、光の機能を発見し、カタチにして世の中に提供してきました。USHIOの基盤事業となった光源・光学装置・映像装置も、共同研究と開発を通じて成長してきた事業です。現在、USHIOが取り組んでいる基盤事業の強化や新規分野への挑戦には、これまでと同様に他社との協働が欠かせません。新規分野への挑戦においては、先進予防医療と環境衛生の2つの分野に着目し、光機能性部品や紫外線殺菌シス

テムの事業化に向け、研究機関やパートナー企業とともに取り組んでいます。

USHIO INNOVATION LABおよびUSHIO TECHNO LABは、このような他社との「協創」を促進するためにつくられました。多くの人にUSHIOの製品や技術を知ってもらい理解を深めてもらうことで、「光でできること」をともに模索し、知見や経験を共有しながらたくさんのパートナーと一緒に新しい事業の創造に取り組んでいきます。

パートナーとの関係性、距離に合わせたストーリー性のある情報提供



社会とともに



社会トピックス

「水木しげるロード」——照明×映像×音響で妖しい雰囲気づくり

「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な漫画家、水木しげるさんが幼少期を過ごした鳥取県境港市の中心部にある「水木しげるロード」が、誕生から25年を経て大規模にリニューアルされました。ロード全体をナイトミュージアムに見立てており、数多くの妖怪のブロンズ像にスポットライトを当て、路面には妖怪たちを影絵で再現しています。さらに、像や樹木に動きをつけるため、時間ごとに照射する光色と明るさを変化させたり、音と連動させて光を動かすなど、さまざまな仕掛けで見る人が楽しめる工夫をしています。

今回のリニューアルには、ウシオライティングが照明機器の納入と全体制御オペレーションに参画しています。「すべての人にやさしく、だれもが楽しめる道づくり」をテーマに、地元民から愛される魅力的な街づくりに貢献しています。



水木しげるロード全景



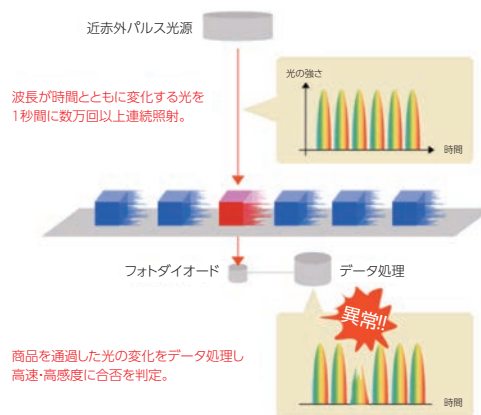
社会トピックス

ウシオの光で全数検査を実現し、より安心、安全な商品を！

スマートフォンや家電などに使われている電子・光学部品、さらには食料品や化粧品・医薬品など、私たちの身近にあり、大量生産されている商品の多くは、検査の効率とコスト面から「抜き取り検査」が行われています。しかし、すべての商品を検査する「全数検査」に比べ、万が一の品質や安全面に対するユーザーの不安や、不良発生時には当該固体が含まれるロットを丸ごと廃棄するロスコストなどの課題を抱えていました。

このような課題を解決し、全数検査の実現に向けてウシオが開発しているのが、波長が時間とともに変化する光を1秒間に数万回繰り返し照射する新光源「近赤外パルス光」です。この近赤外パルス光を商品に照射し、透過した光の強さの時間変化を測定します。その測定結果と、基準となる正常な商品の時間変化とを瞬時に比較し、その差分を見ることで、個別商品の不良や欠陥を見つけることができるのです。

※次ページで、「近赤外パルス光」の開発にかかわったメンバーの声ををご紹介します。



新光源による測定イメージ

ウシオの“ヒト”

技術統括本部 開発部

横山 拓馬・五十嵐 彩



毎日の生活に安心・安全を

Q なぜ多くのメーカーでは「全数検査」ではなく「抜き取り検査」が行われているのでしょうか？

大きな理由の一つが、大量に生産され、高速ラインで流れていく商品を、生産速度を落とすことなく全数検査することが技術的に難しいためです。

検査方法には、目視や装置を使った検査などさまざまな方法があり、その一つが「分光法」です。分光法とは、特定の波長を持つ光をモノに当て、その透過により含有成分を測定する方法で、人が触れることなく測定できるため衛生上優れた方法といえます。しかし、例えば近赤外光を用いた分光検査では、透過

してきた近赤外光の波長の微小な違いを見分ける必要がありますが、不透明な物質は光を通しにくいいため、従来の光源では光量が足らず、測定に長い時間を要していました。一方、測定時間を短くするために強い光を照射すると、商品温度が上昇し、品質が低下するリスクがありました。

Q 全数検査を可能にする新光源の強みについて教えてください。

私たちが取り組んでいる新光源は、一つの商品に数百回以上の近赤外パルス光を照射・測定し、複数の結果を積算することで、1000分の1秒の速さで信頼性の高い判定結果が得られます。また、瞬間的に強い光が出るパルスレーザーを用いることで、熱の影響を抑制しつつ不透明な商品の測定に十分なパワーも実現しました。この、高速・高感度・高精度な全く新しい近赤外分光法により1秒間に数十～百個以上の商品の検査を可能にします。

Q 今後の展望を聞かせてください。

現在、ウシオではこの新光源の実用化に向け、他企業とのコラボレーションのもと、さまざまなテストを繰り返しています。高速・高精度な全数検査が可能になれば、メーカーでのロスコスト削減やオートメーション化の促進だけではなく、私たち自身がより安心して商品に接することができるようになります。

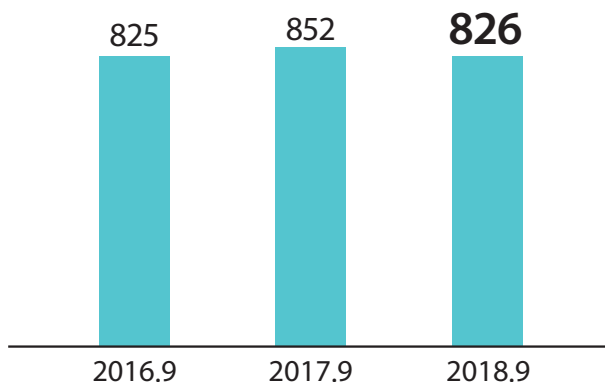
私たちの技術を用いて安定した品質の商品を世の中に送り出し、安心・安全な社会に貢献していきたい。それが、光のプロフェッショナルとしての役割だと考えています。

決算の状況

◆ 売上高・利益の推移 (億円) ※第2四半期累計

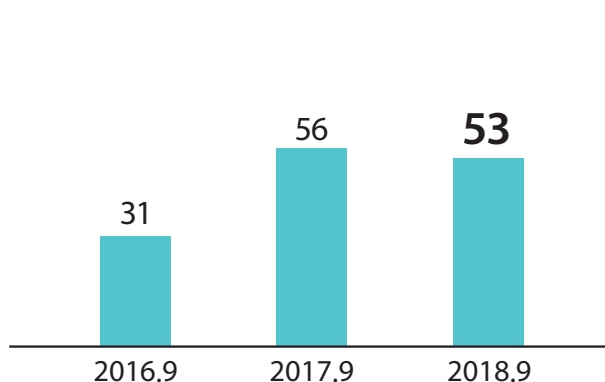
■ 売上高

前年同期比 $\triangle 3.1\%$ 



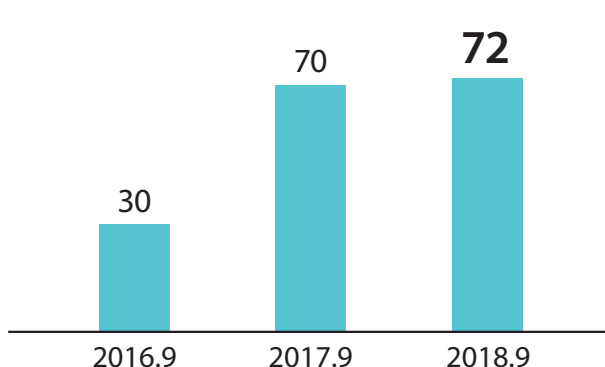
■ 営業利益

前年同期比 $\triangle 5.0\%$ 



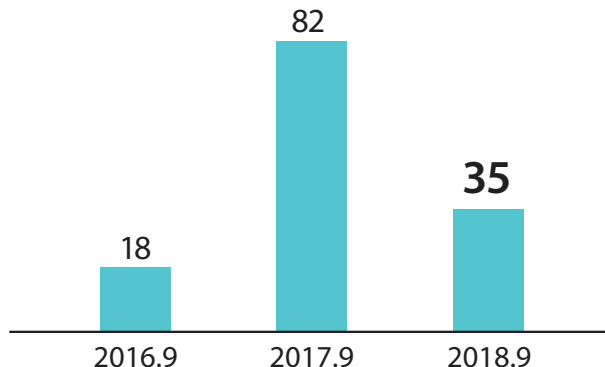
■ 経常利益

前年同期比 $+3.1\%$ 



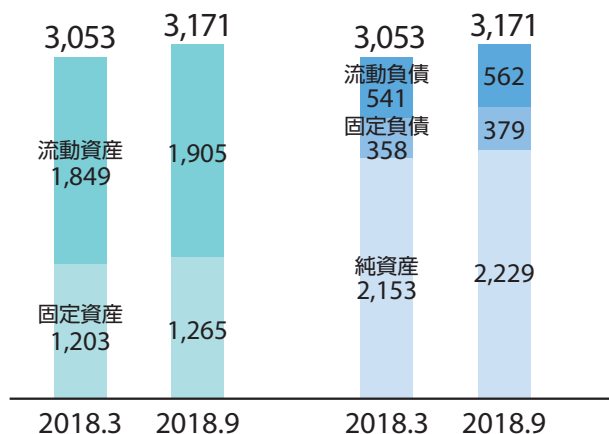
■ 親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期比 $\triangle 57.7\%$ 



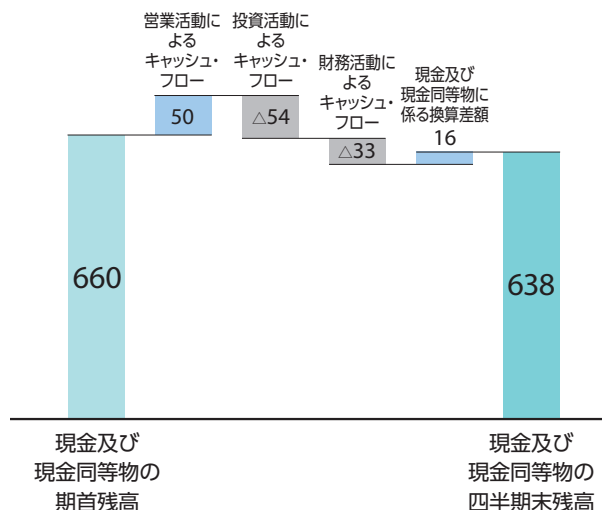
◆ 貸借対照表、キャッシュ・フロー (億円)

■ 資産の部



■ 負債・純資産の部

■ キャッシュ・フロー



財務担当役員からのメッセージ

「第56期中間 株主通信発行にあたって」

2019年3月期第2四半期の当社連結業績は減収減益になりました。前年同期に特定の分野でまとまった売上を計上したことが主要因ですが、中期経営計画に沿った各種施策は順調に進捗しています。

映像装置事業は、生産地移管などを含む収益構造改革を進めることで収益性を改善しています。ランプのマーケットは拡大期は過ぎ鈍化傾向にありますが、製造拠点で進めているIT・ロボット化により生産性が向上しています。また、光学装置を取り巻く環境は概ね良好に推移しており、特に露光装置は堅調に推移しています。EUVマスク検査用光源は今期売り上げを計上予定です。

「未来は光でおもしろくなる」をスローガンに取り組んでいる新規事業の立ち上げが進み、小粒ながら将来有望な案件が増えてきました。これらを着実に軌道に乗せるため、今後はさらに質とスピードを向上させ、事業化に向けて取り組んでまいります。また、事業立ち上げのさらなるスピードアップを図るため、研究開発投資や戦略的M&Aにも注力してまいります。

執行役員
経営戦略部門長

朝日 崇文



株主さまとともに

株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行済株式総数 139,628,721 株

株主数 10,643 名

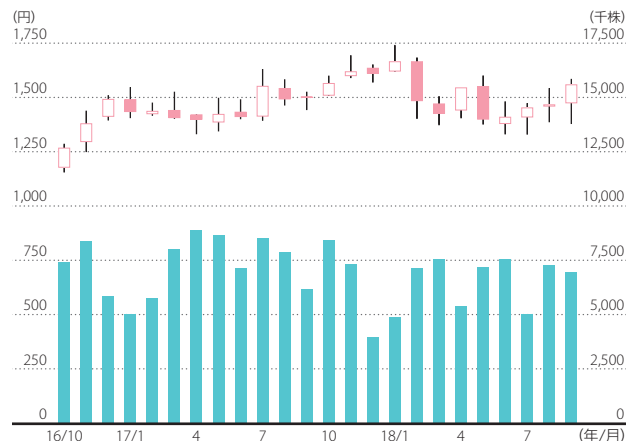
大株主の状況 (200万株以上)

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	9,539	6.83
株式会社りそな銀行	6,319	4.52
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	6,089	4.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,969	4.27
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リューエスタックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	5,494	3.93
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.06
株式会社三菱UFJ銀行	4,248	3.04
朝日生命保険相互会社	3,305	2.36
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SSD00	2,895	2.07
牛尾 治朗	2,636	1.88
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	2,579	1.84
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	2,366	1.69
ノーザントラストカンパニー (エイブイエフシー) アカウント ノントリーティー	2,205	1.57
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	2,204	1.57
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	2,096	1.50

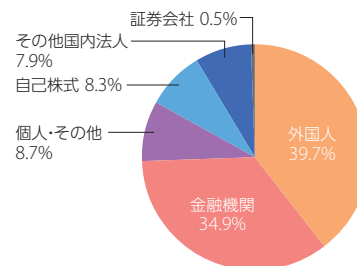
※上記のほか、自己株式が11,575千株あります。なお、自己株式11,575千株には、役員向け株式報酬信託制度に係る信託が所有する当社株式352千株を含んでおりません。

※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株価の動き／株式売買高



株式の分布状況



◆ 株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	https://www.ushio.co.jp/jp/ir/epub ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人
および特別口座
管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

〈郵便物送付先〉 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈電話照会先〉 **0120-782-031** (フリーダイヤル)

各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
・ 住所・氏名等の変更 ・ 単元未満株式の買取請求 ・ 配当金の受取方法の指定 ・ 相続	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
・ 一般口座への振替	—	
・ 支払期間経過後の配当金	三井住友信託銀行	

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行います。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員(2018年9月30日現在)

代表取締役会長	牛 尾 治 朗
代表取締役社長	浜 島 健 爾
取締役	牛 尾 志 朗
取締役	伴 野 裕 明
社外取締役	原 良 也
社外取締役	金 丸 恭 文
社外取締役	橘・フクシマ・咲江
取締役 (常勤監査等委員)	小 林 敦 之
社外取締役 (監査等委員)	米 田 正 典
社外取締役 (監査等委員)	山 口 伸 淑

従業員数(2018年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,589名
国内グループ計	920名
海外グループ計	3,278名
合計	5,787名

発行: ウシオ電機株式会社 経営企画部
〒100-8150 東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL: 03-5657-1007 FAX: 03-5657-1020

 <https://www.ushio.co.jp>



統合レポートを発行いたしました

2018年10月5日、当社にとって初めての統合レポートである「USHIO Report 2018」を発行しました。当社に関するさまざまな情報を重要性・簡潔性・持続性に重点をおき、まとめました。

当社ホームページにて公開しております。

URL: <https://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/ushioreport/index.html>

オフィシャルWebサイトもご活用ください

投資家情報

社長メッセージや決算資料など、さまざまな情報を掲載しています。



<https://www.ushio.co.jp/jp/ir/>

CSR・環境

環境保全、社会貢献、安全への取り組みなど、さまざまな情報を掲載しています。



<https://www.ushio.co.jp/jp/csr/>



公式facebook

<https://www.facebook.com/ushio.group/>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキを使用しています。